

人間環境科学科・アジア社会論研究室 店田 廣文 (Laboratory of Asian Social Studies)



研究室概要

アジア社会論研究室は、1987年4月の人間科学部開設と同時に活動を開始した。ここでは学部ゼミ、大学院ゼミ、および教員個人の調査研究活動の3つに分けて紹介する。担当教員は、中東や北アフリカのイスラーム社会を対象とする社会学的な地域研究を専門としていたが、学部ゼミでは当初から社会調査によるフィールドワークを含めた調査研究活動を国内の地域を対象として実施することとした。大学院ゼミが本格的に活動するようになったのは、2000年頃からである。当初は、院生個人の研究課題を取り上げて運営していたが、後に研究プロジェクトを立ち上げて、個人課題とは別に少子高齢化調査や滞日ムスリム（イスラーム教徒）調査などの共同研究を行うようになった。なお、アジア社会論という名称を使用するようになったのは、2004年度の人間科学部改組以来のことであるが、開設当初からの研究室の活動を振り返り、今後の展開についても言及したい。なお、学部生・院生の個人別研究課題や進路状況の詳細は以下の研究室ホームページを参照されたい (http://www.f.waseda.jp/htanada/waseda_net_wwww/Welcome.html)。

学部ゼミの調査研究活動

学部の専門ゼミ（旧称：演習）では、1988年度より毎年度テーマを設定して社会調査を実施してきた。1996年度までは国内調査として、埼玉県秩父郡両神村、長野県岡谷市、新潟県東頸城郡松代町などの市町村（いずれも調査当時の地名）を対象とする調査であった。調査研究のテーマは、まちづくりや地域活性化、過疎化や高齢化、教育や外国人労働など多岐にわたっていた。偶々、1995年頃から実施していた海外の高齢者調査のために東南アジアを訪れる機会があり、マラヤ大学教員との折衝を経て、1997年度より海外調査を専門ゼミの活動に導入することとした。マラヤ大学は、早稲田大学と学術交流協定を締結しており、学生交流に関する支援制度があったことも幸いして、毎年、マラヤ大学キャンパスを舞台として、マラヤ大学学生の意識調査という形での調査研究を開始した。調査は、1週間前後の調査合宿中に、マラヤ大学学生を回答者として英語の調査票を使用した面接聞き取り調査として行われた。これまでの調査の主題と概要は、別表の通りである。

初回の調査（1997年）に参加したのは学部生4名と院生2名であった。丹下健三が設計した、現在のKLIA（クアラルンプール国際空港）は建設途上であり、マレーシア自体が経済発展著しい状況であった。宿舎は、キャンパスからは徒歩20分程度の隣接地にあるマラヤ大学の教員用の家族向け宿舎であった。2階建てで森の中の一軒家といった風情で、台所と浴室や広いリビングルームがあり、毎晩、調査終了後にはリビングルームがフィールドノートの整理の場となった。台所の勝手口には鉄格子があり、食料を狙ってくる猿の侵入防止だということが被害にあって判明するというくらい現地の事情は目新しいことばかりであった。家の周囲には、大きなトカゲが歩き回ることもあった。2004年頃からは、Rumah Universiti（大学宿舎の意）と呼ばれる大学のゲスト・ハウスを利用することとなった。このゲスト・ハウスは、キャンパス中心部に位置し、調査活動には便利な立地であったが、マラヤ大学の管理運営体制の変更もあって、2014年春に閉鎖されており、2014年9月の調査は、大学近隣のホテルを宿舎とした。2015年度の専門ゼミでは、いったん海外調査は中断してアジア社会に関する文献講読を中心とするゼミ運営が行われる予定であるが、2016年度以降は国内調査を中心に据えて、あらたな調査研究活動を実施することを計画している。

大学院ゼミの調査研究活動

大学院生が一定数在籍するようになり、ゼミ生共同での調査研究が活性化したのは2000年代になってからである。活動の地づくりとして、前述した学部ゼミの海外調査に所属する院生を必ず教務補助として参加させ調査経験を積ませるようにしたことは、大学院生個々人の調査研究活動の活性化に役立った。2004年にはそれまで教員が取り組んできた高齢化研究を発展させる形で、少子高齢化に関する調査プロジェクトを組織した。日本、ベトナム、マレーシアの三カ国を対象とするアンケート調査を使用した大規模調査を行い、助手や院生もベトナムやマレーシア側との共同調査を経験した。

ほぼ同時に2005年からは滞日ムスリム調査に取り組むこととなり、このプロジェクトは研究課題を発展させながら継続中である。来年度以降は、国内でのフィールド調査を軸として、滞日ムスリムやモスク（イスラーム礼拝施設）

表：マラヤ大学学生意識調査一覧（1997～2014年）

	調査タイトル	主題
1997	Social Survey on Lifestyle of UM Students in Kuala Lumpur, Malaysia	ライフスタイルと生活意識
1999	Social Survey on Family and Household of UM Students in Kuala Lumpur, Malaysia	家族と世帯
2000	Marriage Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2000	結婚
2001	Gender Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2001	ジェンダー
2002	Gender and Sexuality Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2002	ジェンダーとセクシュアリティ
2003	Nation and Race (Ethnicity) Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2003	国家と民族（エスニシティ）
2004	Marriage Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2004	少子化
2005	Marriage Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2005	少子化
2006	Youth Culture, Life Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2006	若者文化、ライフスタイル
2007	Lifestyle, Ethnicity, Abundance Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2007	ライフスタイル、民族、豊かさ
2008	Environments and Life Survey of UM Students in Kuala Lumpur 2008	ライフスタイル、民族、環境
2009	Culture and Lifestyle Survey of University Students in Kuala Lumpur 2009	文化、ライフスタイル
2010	Multicultural Society Survey of University Students in Kuala Lumpur 2010	教育、ボランティア、結婚
2012	Survey on Family in the Multi-Cultural Society of UM Students in Kuala Lumpur 2012	学生生活、友人、ライフスタイル
2013	Survey on Ethnicity and Religion among UM Students in Kuala Lumpur 2013	結婚、仕事、メディア
2014	Survey on Ethnicity and Religion among UM Students in Kuala Lumpur 2014	家族、健康、政治、ハラル

研究室だより

に関する調査研究を予定している（滞日ムスリム調査研究プロジェクト：<http://imemgs.com>）。この他、博士課程には、「トルコ」研究、中国の高齢化研究、日本の専門学校教育を研究課題とする院生が在籍している。

＜関連プロジェクト一覧（いずれも科研費プロジェクト）＞

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| 2004-2006年度 | アジアにおける少子高齢化の動向と婚姻出生に関する国際比較研究 |
| 2005-2006年度 | 関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する研究 |
| 2007-2008年度 | 在日ムスリムの社会経済的活動と宗教的ネットワークに関する調査研究 |
| 2009-2011年度 | 滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価 |
| 2012-2014年度 | 滞日ムスリムに関する住民意識の3地域比較調査研究と多文化政策再考 |
| 2015-2017年度 | 滞日ムスリムの生活世界の変容とムスリム・コミュニティの持続的発展（申請中） |

教員の調査研究活動

人間科学部に着任して以降の主な研究課題は、3つである。第一は、中東・北アフリカを研究対象とする地域研究であり、同地域の都市社会、都市化、人口問題が、主なテーマである。1991年度および1998年度にそれぞれ在外研究の機会を得て、ほぼ1年間ずつエジプトに滞在して研究活動を行った。そこでの具体的な課題は、都市化と同郷者団体、都市の発展、人口都市化などにあり、エジプト研究を開始した当初からの関心事項であった地域集団の研究、とりわけ首都カイロに所在する同郷者団体のフィールド調査を実施できたことが最大の成果であった。また人口問題についても歴史的な分析を行って、さらに研究全体の深化を図っているが、「アラブの春」以降の不安定な現地情勢やその他の事情のため、今後は主に文献研究や統計資料などの分析を進める予定である。

第二の課題は、着任後に開始した高齢者に関する一連の調査研究である。社会学関係の教員数名が中心となって開始したプロジェクトであり、当初は「高齢者の生活の質」に関する都内や埼玉県内在住の高齢者に関する調査研究や一般向けの講演活動などに始まり、後には「高齢者のリビングアレンジメント」に関する研究に発展していった。いずれのテーマについても、国際比較研究として調査研究活動を行い、当初は、韓国や台湾、後には、シンガポールやマレーシアを含めた比較研究を展開した。本研究からは、大学院ゼミの共同研究として実施した少子高齢化に関する研究プロジェクトが派生したし、院生個人の研究課題として高齢化研究を実施する下地ともなったという点で、一時

は研究室の大きな柱ともなったプロジェクトである。

第三の課題は、日本のイスラームに関する研究である。ここには、戦中期日本のイスラーム研究に関する課題と、主に現代の滞日ムスリムの生活に関する課題が含まれる。前者は、教員個人が2000年頃から取り組んだものであり、早稲田大学図書館所蔵の「イスラーム文庫」（戦中期日本のイスラーム研究機関関連の史資料）の整理と分析を中心とする研究である。後者は、1990年代初めから急増した滞日ムスリム人口（2014年現在、10万人を超えている）の生活全般に関する調査研究である。前掲の科研費補助金の助成をうけ、院生を含めた研究室全体の研究として、全国モスク調査や滞日ムスリムの生活意識調査、全国のモスク代表者を招聘した「全国モスク代表者会議」の開催や日本人住民のイスラーム認識調査を実施してきた。現在は、これからの滞日ムスリム・コミュニティの発展を継続的な研究課題としている。

以上のような学部ゼミ、大学院ゼミ、教員各々の研究課題の深化と連携を図り、3つのカテゴリーそれぞれの研究成果をまとめることがアジア社会論研究室の課題である。

教員紹介

学歴・職歴

- | | |
|---------|--|
| 1972年3月 | 東京外国語大学外国語学部アラビア語学科卒業 |
| 1972年4月 | 沖ユニバック株式会社勤務（～1976年7月） |
| 1979年3月 | 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了 |
| 1985年3月 | 早稲田大学大学院文学研究科（社会学専攻）博士課程単位取得満期退学 |
| 1987年4月 | 早稲田大学人間科学部専任講師 |
| 1991年4月 | 早稲田大学人間科学部助教授 |
| 1991年4月 | 国立社会犯罪研究センター（エジプト）客員研究員（～1992年3月） |
| 1996年4月 | 早稲田大学人間科学部教授（2004年9月より、人間科学学術院・教授） |
| 1998年1月 | 博士（人間科学）（早稲田大学） 1999年1月21日（第2543号） |
| 1998年4月 | カイロアメリカン大学ソーシャルリサーチセンター客員研究員（～1999年3月） |

主要研究業績

- 店田廣文：1999『エジプトの都市社会』、早稲田大学出版部、ix+240頁。
- 店田廣文編著：2005『アジアの少子高齢化と社会・経済発展』、早稲田大学出版部、302頁。
- 店田廣文：2006「戦中期日本における回教研究 — 『大日本回教協会寄託資料』の分析を中心に—」、『社会学年誌』、

研究室だより

47号、117-131頁。

TANADA Hirofumi、2007, Living Arrangements of the Elderly and Family Change in Japan, *The Family in the New Millennium* (eds. by A. Scott Loveless & T. B. Holman) Volume 2, Praeger Publishers/, pp.237-254.

店田廣文：2008 「国土・人口・人口変動」、山田俊一編『エジプトの政治経済改革』アジア経済研究所、13-33頁。

店田廣文：2010 「フィールド調査とアジア社会論の課題」、村井吉敬編『アジア学のすすめ 第2巻 アジア・社会文化論』弘文堂、274-300頁。

TANADA Hirofumi、2013, Islamic Research Institutes in Wartime Japan: Introductory Investigation of the “Deposited Materials by the Dai-Nippon Kaikyo Kyokai (Greater Japan Muslim League)”, *Annals of Japan Association for Middle East Studies*, 28-2, pp.85-106.

店田廣文：2013「世界と日本のムスリム人口 2011年」、『人間科学研究』26巻1号、27-37頁。

店田廣文：2015『日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社。